

NO.128 サステナブルファッションに対する 女子大学生の意識と着まわし服の開発

はじめに

現在、ファッション業界では大量生産・大量廃棄が環境問題として指摘されている。一方で、女子大学生はトレンドを楽しみながら、多様なコーディネートを行いたいというニーズを持っていると考えられる。これらを両立する方法として、サステナブルで着まわしがしやすい衣服の導入が有効であると考えられるが、現状ではそのような衣服の選択肢は十分とはいえない。

そこで本研究では、女子大学生の着まわしおよびサステナブルファッションに対する意識をアンケート調査により明らかにし、その結果をもとに、流行性・機能性・環境配慮を兼ね備えた着まわし服の提案および制作を目的とした。

制作のための予備調査

女子大学生84名を対象に、衣服の購入や着まわし、サステナブルファッションに対する意識についてアンケート調査を行った。

その結果、服の購入時には「デザイン」を最も重視する傾向が見られ「環境への配慮」や「リサイクル性」は相対的に重視されていないことが明らかとなった。一方で、着まわしを意識して服を購入している回答者は多く、着まわししやすい服の特徴として「色が合わせやすい」、「シンプルなデザイン」が多く挙げられた。また、2way仕様や形状を変えられるなど、一着で複数の着こなしが可能なデザインへの需要も高く、着まわしやすさには「印象の変化」と「使いやすさ」が重要であることが示された。図1に示すように、サステナブルファッションという言葉の認知度は高いとはいえないものの、その考え方に対しては一定の共感が見られた。

内藤研究室 A22AB001 青木志緒

サステナブルファッションという言葉を知っているか

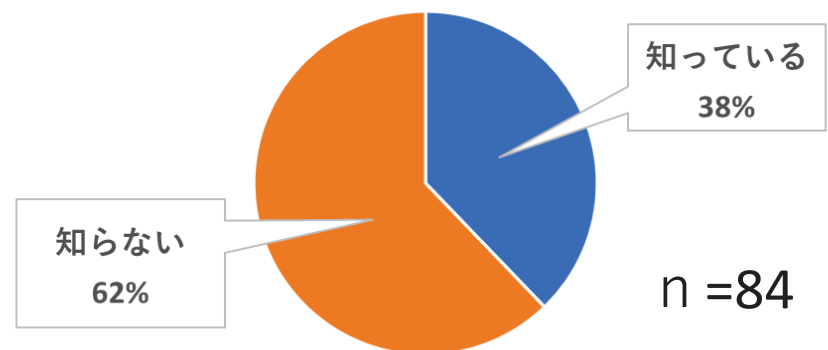


図1 サステナブルファッションという言葉の認知度

以上の結果から、流行性やデザイン性を損なうことなく、着まわしの幅を広げられる衣服を提案することが、女子大学生にサステナブルな選択を促す有効な手段であると考えられる。

デザイン提案と試作

予備調査の結果をふまえ、サステナブルファッションとして着まわしが可能な「シャツ」のデザインを計35点提案した。市販の台襟付き長袖シャツをトレースして型紙を作成し、それを展開して提案したデザインをシーチングで試作した。フィッティングを重ねて検討した結果、着まわしの幅をより広げることができるデザイン計16点を本制作することにした。

本制作

本制作に用いる生地は、シャツ素材としてよく使用されているブロード（綿100%）を採用して「使いやすさ」を確保した。一方で「印象を変化させる工夫」としてフェイクファー（ポリエステル100%）を用いた。「着まわしの幅を広げる工夫」としてボタンやスナップ、ファスナーを活用し、着用方法の工夫・提案も行った。

本制作品

ノーマルブラウス



巻く

付け襟

ノースリーブ ブラウス



袖の付け
替え

ファスナータイプ



色・柄・素材
を変える

ベアトップ



襟の着方
を変える

切り替えタイプ



色・柄・丈
を変える

まとめ

本研究では、アンケート結果をもとに、「形を変えられる服」、「飽きずに着られるデザイン」などのニーズを明らかにし、付け襟や付け替え袖、丈の切り替え、柄の変化、着方の工夫などを取り入れた複数のアイテムを提案・制作した。アイテム自体を増やさずに着用バリエーションを広げることで、着用機会の拡大と服を長く大切に使うことにつながる提案ができたと考える。